

## ◆特集◆ 豪雪は災害

### 今冬の大雪

秋田県内でも能代市は沿岸部のため例年であれば降雪は比較的少ないのですが、今冬は異例なほど、近年経験したことのない大雪でした。

### 【災害級の大雪】

今冬の降雪はまさに災害でした。能代市では1月20日午前9時現在の積雪深が能代地域で62センチメートル、二ツ井地域で105センチメートルとなったことから、同日午前11時に雪害対策警戒部を設置して警戒に当たりました。その後降り続き、1月21日午前9時の積雪深が今冬最高の能代地域で76センチメートル、二ツ井地域で132センチメートルとさらに増えたことから、雪害対策警戒部を豪雪対策本部に格上げし、倒木や農業施設等の被害状況の確認、市民への情報提供、消防団への協力依頼のほか、除排雪の対応を強化するなどとなりました。豪雪対策本部設置は平成18年以来のことでした。

### 【災害】

自然現象等により、人や社会生活に損害を受ける事態のことを指す。

災害対策基本法第2条では被害の程度において暴風、豪雨、洪水、地震、津波等に類する政令で定める原因により生ずる被害をいうとされており、豪雪もその中に含まれる。

### 【除排雪への対応】

除排雪に関しては、数回にわたり予算を

専決し、予算総額7億7441万3000円まで増やして、難局に当たりました。また、能代山本建設業協会からの協力を得て、1月25日から旧市内の幹線道路を中心に、降雪の影響により狭隘となつている道路の排雪を行い、通行する車両の安全確保のために対応しました。交通に支障を来していた道路脇の壁になつている雪を排雪し、道路を拡幅する作業です。私たちは作業の邪魔にならないように写真を撮って回りました。



市道の排雪作業の様子

あつという間に大型ダンプの荷台がいつぱいになり、次々とピストン輸送で排雪され、道路が拡幅されていくさまはまさに圧巻の光景でした。

どんどん進む排雪作業の反面、雪捨て場が満杯になりつつありました。能代球場東側、落合浜隣接地、旧東能代中学校跡地の3か所を指定していますがスペースがなくなり、北高跡地や河畔公園の西側を新たに開放して対応に当たりました。雪捨て場の確保も頭の中に置いておかなければならないなど、市の担当部署は連日大変な気苦労があると推察されました。

幹線道路の大規模な排雪作業は1月いつ

ぱい行われ、2月にも市直営の除雪班が能代山本建設業協会と協力して細部の排雪作業を実施しました。



交差点の排雪作業の様子

除排雪作業は連日夜間も健康に十分気を付けて、頑張り抜いてほしいと願うのみでした。

### 【大雪対応の難しさ】

大雪によるつらさは行政のみならず、市民も一緒です。屋根の雪下ろしのほか、自宅前の雪かき等、この大雪には大変な苦労がありました。

特に高齢者の世帯は除雪を委託する場合もあり、受託している建築関連業者は、排雪や雪下ろしの依頼が殺到し、申し訳ないが受けきれなくて断るのに苦労しています、とお話されてきました。

例年であれば、2月に入ると降雪の量は減少しますが、このような異常気象の中、今年がどうなるかは神のみぞ知る、天に祈るのみという日々でした。しかし、朝の来ない夜はありません。穏やかな春の日差しを待ちながら、取材を終えました。

取材：渡邊正人 落合範良